

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

その33 文：五十嵐 宏之 さん
佐藤 新一 さん

「ノコギリ状の家並み」ってなんだ？

～「高砂屋」、「赤岩屋」の表示が残る古い宿駅～

群岡地区には、荷物の往来・積み替えや馬の交換、人の休憩・宿泊のために藩より指定された「宿駅」と呼ばれる場所がいくつかありました。

車峠の北の「宝川」もそのひとつです。ここを訪れると真っ先に目に入るのが旅籠の壁に書かれた看板にあたる「高砂屋」「赤岩屋」の表示です。昔の人々の多くの往来が偲べれます。



宝川を訪れた人を出迎える「高砂屋」と「赤岩屋」の文字

さて、普通の宿駅の家並みといえば、建物は街道にそって一直線に並んでいるものです。ところがここでは、一軒一軒に角度を付けてノコギリの歯のように建てられているのです。確かに町並みの端から見ればそれぞれの建物がどこからどこまでなのかがはっきり見て取ることができます。

どうしてこのような家並みにしたのでしょう？大変珍しい家並みだといえます。皆さんも自分の目で確かめ、その理由を推理してみたいかがででしょうか？

また、古い宿駅とあって種々の神仏などが祭られています。子孫繁栄と生産向上を願う「山の神」、軍神であり農業の守護神である「宝川諏訪神社」、畜生道（本能）の迷いから正しい道の生き方に導いてくれる「馬頭観音」、天下泰平・国土安全を願い六十六部聖と呼ばれた人たちが残していった「石碑」など、たくさんの史跡が残されています。また、江戸時代初期、蒲生氏が会津藩主だったころに作られた「宝川の一里塚」も残されています。ほかの地区ではなかなか見ることのできない多くのものがある「宝川」地区を訪ねてみてはいかがでしょうか？

皆さん、この機会にぜひご覧ください。

昨年12月から運用を開始した西会津町の公式フェイスブック「なじよな町、西会津。」と、公式ホームページのQRコードを掲載します。



お知らせ



こゆりこども園の発表会より、ゆり組男児による『お祭り忍者』の一場面。愛らしくも、りりしい園児の表情が印象的でした。
(6ページに関連記事)

今月の表紙